

| | | |
|----------------|--|--|
| 学校 教育 目標 | 「ひびき合い」ともによりよく生きる」 | |
| | 【知】自ら課題を発見し、考えを深めながらよりよく解決していく子を育てます。 【徳】自分も身近な人も大切に、思いやりのある優しい心をもつ子を育てます。 【体】体を鍛え、自他の生命や体を大切にすることを育てます。 【公】自分と身近な人・もの・ことにかかわり、集団の一員として役に立とうとする子を育てます。 【関】自分から様々な人とふれ合い、共に生きていこうとする子を育てます。 | 【問題解決力、関心・意欲・態度】 【人権尊重、あいさつ、思いやり】 【生命尊重、自己の体力づくり】 【社会参画、他者への貢献、自尊感情】 【コミュニケーション、共生、他者理解】 |

| | | | | | |
|------|--------------|--|-----------|-------|--------------------|
| 学校概要 | 創立 45 周年 | 学校長 山本 純 | 副校長 宮田 貴子 | 2 学期制 | 一般学級: 18 個別支援学級: 4 |
| | 児童生徒数: 570 人 | 主な関係校: 谷本中 つつじが丘小 谷本小 さつきが丘小 緑が丘中学校 山下小学校 山下みどり台小学 | | | |

| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 谷本中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
|---|--|--|
| ①人・もの・こととのかかわりを通して、豊かなコミュニケーション力をもつ子ども【言語活用能力】 ②人と豊かにかかわり、自他を認め合いながら、ともに学ぶ子ども【認め合う力】 | 谷本中学校 谷本小学校 つつじが丘小学校 藤が丘小学校 さつきが丘小学校 | 笑顔であいさつ～自分を認め 相手を認め～ 【言語活用能力】【認め合う力】の育成に向けて、次の取組を進める。 ブロック小・中学校の朝会等で「笑顔であいさつ」の児童生徒への周知、小中合同授業研究会(谷本中学校、さつきが丘中学校)、谷本中職場体験の受け入れ、児童生徒交流日、中学校教諭による小学校での授業、部活動体験、中学校吹奏楽部の演奏鑑賞等。 |

| | |
|----------------|--|
| 中期 取組 目標 | ◎学校教育目標「ひびき合い、ともによりよく生きる」の具現化 ・自ら考え判断し、主体者意識をもって行動できる力を育むため、「主体的・対話的で深い学び」となる問題解決的な授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。 ・特別支援教育の視点から、子ども一人ひとりが安心して楽しく学校生活を送ることができるようにします。 ・保護者や地域と連携し、安心・安全・信頼に応える学校づくりを進めます。 ・教職員としての自覚をもち、相互の信頼と協働性にも基づく組織的な取組を進め、授業力向上、児童理解に関わる指導力向上など教育についての専門性を高め、切磋琢磨していきます。 ・明るく伸びやかに生活し、自分や他者の良さを認め合い、いじめを許さない学校風土を醸成していきます。 |
|----------------|--|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------------------------|---|
| 確かな学力 | ①日々の授業を大切に、「藤小共通指導ガイドライン」(経営計画巻末掲載)を基盤にして、それぞれの教員が自分の持ち味を生かしながら、新教育課程をにらみ、問題解決的で対話的、主体的な学びを実践できるようにし、全ての児童が安心して学べる環境にする。 ②重点研究(任意の教科、プログラミング教育、GIGAスクールがキーワード)を通して日常的に授業を見合い、【資質・能力】を育てる学校教育目標に迫ることのできる授業づくりに協力して取り組んでいく。教職員の自主性を重んじた研究を推進する。 ③言語活動をより取り入れた授業展開を共有し、コミュニケーション力を育成する。 |
| 担当 学力・評価委員会 | |
| 豊かな心 | ①Y-Pアセスメントを早期に完成させ、クラスの実態を把握した上で、学年で共有し、根拠をもった丁寧な指導を心がける。 ②挨拶の定着について、小中ブロックで協力しながら、地域や近隣校一体となった取組を進めていく。特に、地域・保護者の方々から子どもへの積極的なあいさつなどをお願いしていきたい。委員会活動であいさつ運動を行うなど、より自発的に、その場に応じたものが出来るようになるための支援を進めていく。 ③学校ガイドラインに基づき、児童に対して全職員が共通の指導を行えるようにする。 |
| 担当 子ども支援委員会 | |
| 健やかな体 | ①学校行事や給食指導の中で、健康な身体の大切さや自分の健康に関心をもつ事を気付かせていき、感染防止に留意しつつ、児童会を中心に意欲を高められるようにしていく。 ②児童保健委員会や学校づくり委員会などで、「感染防止」「免疫力の向上」などを例に、本校の実態に合わせた形で取り組める実践を決定し、その都度取り組んでいく。 ③保健領域の担任・養護教諭の授業連携をさらに深める。全教育活動を通じて、感染症の防止、予防方法について指導を積み重ねる。 |
| 担当 健康・環境委員会 | |
| 児童生徒指導 | ①児童指導や児童理解を全職員で共有し、専任を中心とした児童指導の組織化を進めていく。具体的には、学年主任を中心として児童指導を行い、必要な状況に応じて専任が関わる体制を維持・継続していく。「迅速」「協力」「誠意」を大事に、未然防止を徹底する。 ②授業時間はもちろんのこと、各行事や校外学習、なかよし活動など、あらゆる場面において活躍する児童を賞賛し、自尊感情を高め、児童が持っている良さやリーダー性を引き出していく。「ひびき合い」ともによりよく生きる」という学校教育目標を常に意識させる。 |
| 担当 子ども支援委員会 | |
| 特別支援教育 | ①専任や特別支援コーディネーターの資格を保有している職員を中心にして、必要に応じてケース会議を開き、困り感のある児童の支援体制を共有していく。 ②担任と専任が児童理解について連絡を密にし、外部機関との連携をふくめ、取り出し(フジベン)やTTなど、あらゆる可能性について迅速に対応できるようにする。特に、R3年度は、昨年度の学習で、理解不足がいかどうかを丁寧に見とり、必要に応じてフジベンの活用を保護者や本人に奨励する。 ③教室掲示や授業の進め方など、ユニバーサルデザインの有効性を共有するとともに、教師個々の自主性も重んじていく。 ④学区内外から80名弱の児童を受け入れる「こぼの教室」においては、専門性を生かし、保護者・児童の困り感に寄り添う指導をきめ細かく行うとともに、そのスキルを一般学級の指導にも広げたいけるようにする。 |
| 担当 子ども支援委員会 | |
| 学校運営協議会 | ①学校の運営について、これまで通り、深いご意見をいただくとともに同じ方向性をもって進んでいけるようにする。また、3年目となった谷本中ブロックでの学校運営協議会は昨年実施できなかったため、いっそう大事にしながらご意見を学校運営に着実に生かしていく。 ②学校独自の3回の運営協議会の実施をスムーズに行うとともに、ご意見を学校経営に確実にいかせるようにする。 ③地域の人材を授業に関わらせていただくことで、学校と地域の繋がりをよりいっそう深めていく。昨年度実施できなかった、藤小ふるさとまつりは様子を見実施をしたい。 |
| 担当 地域連携 | |
| いじめへの対応 | ①日頃の教科学習や行事・特活等の中で、お互いを理解し、認め合うことを基盤にしながら学習を進められるようにし、共同の学びを重んじて人権意識を根付かせるようにする。 ②児童支援専任を中心に、子どもの様子を常に気を配り、情報共有をするとともに、保護者との連携も密にしながら日々の教育活動を進める。 ③「藤が丘小学校いじめ防止基本方針」に基づき、迅速かつ組織的な対応を確実に行う。 |
| 担当 子ども支援委員会 | |
| 人材育成・ 組織運営 (働き方改革) | ①メンターチームで行うことを、さらに全職員に発信し、教師個々の自主的、自律的な研究、切磋琢磨する雰囲気大切にしていく。 ②経験豊富な職員が、必要に応じて自ら実践を示すなど、経験の浅い教師が日頃の疑問や不安を解消する場とする。 ③毎週の学年研を学校経営の中核と位置づけ、計画的、意図的に授業や行事が行われるようにし、学年主任を中心とした学年組織を強化していく。 ④引き続き、会議の精選、ミライムの活用、仕事環境の改善等の工夫を行い、業務の効率化を図る。その際個々の自律的なモチベーションを高めることを大切にす。 |
| 担当 主幹会 | |